

道徳科学習指導案

日時 平成29年5月26日（金）第2校時
対象 3年3組 男子20名 女子20名 計40名
指導者 教諭 前之園 礼 央

1 主題名 「礼儀」

2 主題設定の理由

「和をもって貴しとなす」という言葉が示すように、我が国では古来より人間関係において互いを尊重し心を合わせることを重んじ、その思いを相手に伝えるための礼儀を、時代の変化に合わせてながらかたちづくり、今日まで大切に受け継いできた。さらに礼儀は、単に思いを伝えるための行為的な所作にとどまらず、武道や茶道など日本の伝統文化の在り方にも大きな影響を与え、ひいては人として生きる上での美意識にも深く関わってきた。現在の国際的なスポーツの試合で、選手の行動が大きな感動を周囲へ与えることがあるが、それは勝負の結果や技能の優劣のみならず、相手選手を敬う心や支援している周囲の人々への感謝を表す礼儀ある行動が人々の心に響くからであろう。礼儀は、このように時代や文化の違いを超え、豊かで円滑な人間関係を築き、幸福な人生を営む上で大きな役割を果たしてきた。一方で、虚礼という言葉に代表される、相手への敬愛や思いやり、感謝の心を伴わない形式的な礼儀は、豊かな人間関係の醸成を阻むのみならず、かえって互いの関係を無味乾燥なものへと変えてしまいかねない。国際化社会といわれて久しく、様々な文化をもつ人々と関わり協働する機会が一層増加するこれからの社会において、時と場に応じて相手に敬愛の念や、感謝の思いなどを適切に伝えるために礼儀を重んじる心情や態度は重要であると考えられる。

中学生の時期は、一般的にこれまでの家庭や地域、学校などでの学びや活動によって、挨拶や行動規範など様々な礼儀について理解することができ、習慣化されつつある時期である。一方で自我が芽生え、自分なりの見方・考え方をもち、それに基づいて行動しようとする意識が高まるにつれ、既存の価値観や規範意識に疑いをもつ時期でもある。礼儀においても形式的なものに陥りやすくなったり、自分の気持ちを素直に相手に伝えたりすることへの戸惑いから、その意義や役割を見失うことも少なくない。

本学級の生徒は明るく素直で、毎日の学習や学校行事など、何事にも周囲と協力して積極的に取り組む。また、多くの生徒は規範意識や判断力が高く、時と場に応じた礼儀ある行動についてしっかりと理解し、実践できている。しかし、時に自分の思いと他者の思いが異なる状況になったときなどでは、自分の思いが先行して他者の思いを汲み取れず、礼を失する行動によって豊かで円滑な人間関係が築けないときがあった。利己的な見方・考え方に捕らわれず、様々な立場から多面的・多角的に考え、相手の思いに応える礼儀ある行動をとることの意義や役割について、この時期に再度深く考えさせたい。

指導にあたっては、教材を通して礼儀の意義や役割について生徒一人一人が理解を深めることができるようにしたい。また、生徒の本音を十分引き出して考えさせ、議論させる中で、礼儀が人間尊重の基盤に立ち、相手を理解しようとする敬愛の念の上に成り立っていることに気付かせ、今後の自己の生活に生かし、豊かで円滑な人間関係を築いていこうとする実践意欲や態度を醸成したい。

このような考えに立ち、本題材を設定した。

3 学習指導要領との関連

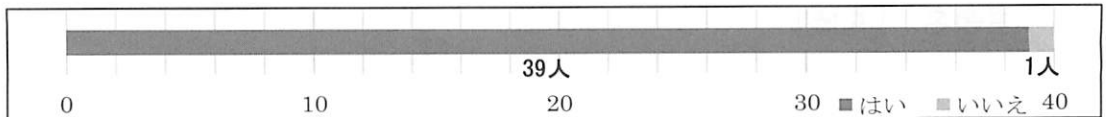
本主題は学習指導要領の次の内容項目と関連が深い。

内容 B 主として人との関わりに関すること

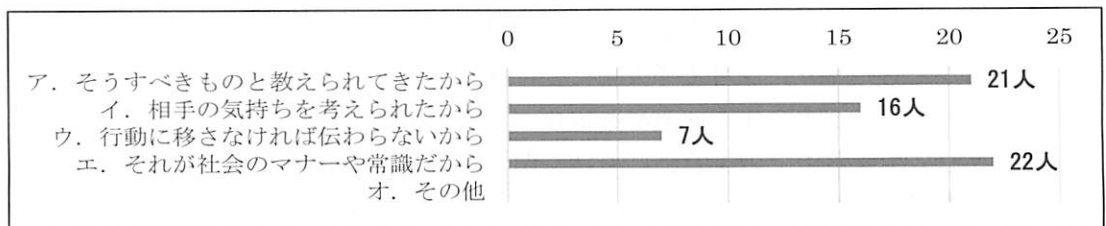
礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。

4 生徒の実態（実施日：平成29年4月11日 対象：3年3組 男子20名、女子20名、計40名）

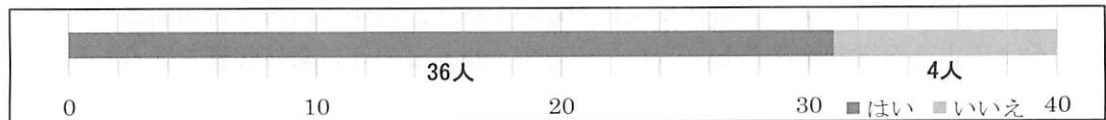
Q1 これまでの生活で、礼儀ある行動をとることができた経験がありますか。



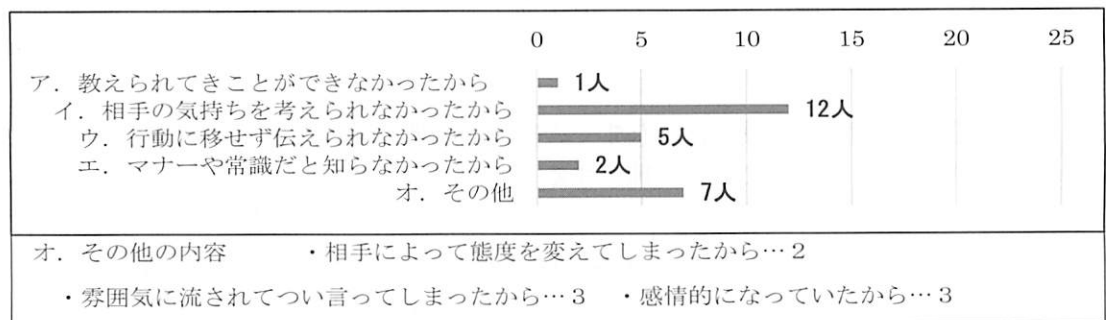
Q2 礼儀ある行動をとることができた原因は何だったと思いますか。（複数回答可）



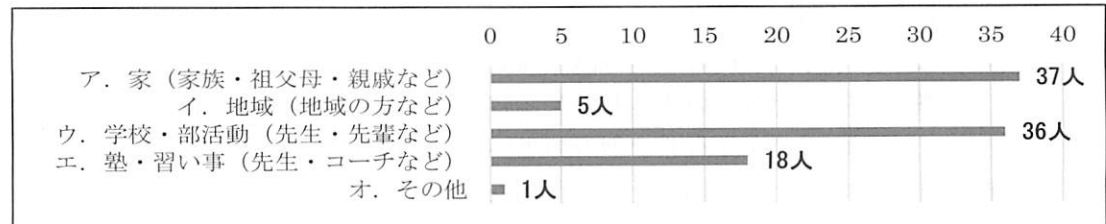
Q3 これまでの生活で、礼儀ある行動をとることができなかった経験はありますか。



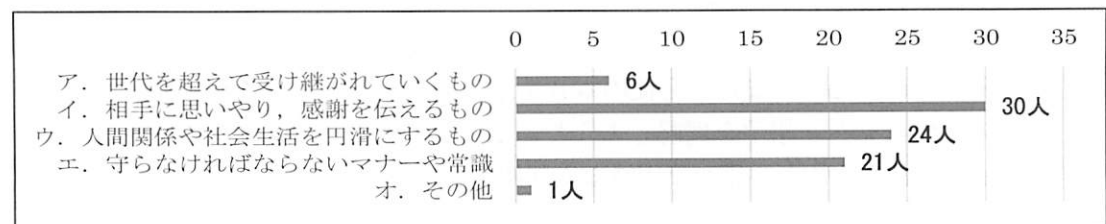
Q4 礼儀ある行動をとることができなかった原因は何だったと思いますか。（複数回答可）



Q5 これまでどんな場面で礼儀について指導されたり教わったりしてきましたか。（複数回答可）



Q6 あなたが生活する上で礼儀とはどんな役割を果たすものだと思いますか。（複数回答可）



[考察]

Q1から、本学級のほとんどの生徒は、日常生活の中で礼儀ある行動をとることができた経験を持ち、その要因として、Q2より、これまでの生活の中で礼儀ある行動を教えられてきたこと、その行動が社会のルールや常識だと考えていることを多くあげている。

一方でQ3から、8割近くの生徒は、礼儀ある行動をとることができなかった経験をもっており、ある場面では礼儀ある行動がとれていても、また違う状況になると礼儀ある行動がとれなくなる生徒が多くいることが窺える。その要因として、Q4より、相手の気持ちが考えられなかったこと、思いを行動に移せずに自分の思いを伝えられなかったことを多くあげており、Q2と対照的であることから、礼儀ある行動がとれなかった原因の背景には、一時の感情に流されたり、思いを行動に移すことに照れや億劫さを感じたりするなど、誰もがもつ心の弱さに起因していると考えられる。

また、Q5より、礼儀を生徒が学んだ場としては家庭や学校を多くあげており、親や教師などから礼儀ある行動のあり方を教えられてきたにもかかわらず、Q6より、生徒は礼儀が世代を超え受け継がれていくものであり、いつかは自分も次の世代に伝えていく存在であるという認識は低いことが分かる。

以上のことより、礼儀ある行動をとることの意義を生徒が主体的、協働的に考え議論し、深く学ぶことで、自分の感情や照れなどの心の弱さを乗り越え、常に礼儀ある行動をとろうとする実践意欲や態度を育むことができると考える。また、礼儀が長い歴史の中で生まれ受け継がれてきた文化であることにも着目させ、今ある礼儀をしっかりと受け継ぎ、次の世代へ伝えていく自覚ももたせたい。

5 ICEモデルを用いたルーブリック

	Iを達成している段階	Cを達成している段階	Eを達成している段階
創造的に考える力や考えようとする態度	礼儀の大切さについて考え、自分なりの考えをもつことができている。	立場カードを使って議論したり、友達の意見を踏まえて考えたりすることによって、自らが捉えていた礼儀の大切さについて多面的・多角的に捉えることができている。	振り返りシートを使ってこれまでの経験を踏まえて内省し、深まった価値を伴った行動をとろうとしている。

6 本時の実際

(1) 本時の目標

教材「一枚のはがき」を読み、礼儀への理解を深め、時と場に応じた礼儀ある行動を実践しようとする意欲や態度を育むとともに、それを支える相手を思いやり感謝する心情を深める。

(2) 教材について「一枚のはがき」

本教材「一枚のはがき」は、「私」が学生時代に二人の友人と父の郷里である徳島県の剣山登山を計画する場面から始まる。最初は宿屋に泊まらずキャンプを行う計画であったため、途方もなく荷物が重くなり、行程が遅れたり移動をバスに変更したりするなど大変な苦勞をする。途中で叔父の家に寄るが、そこで叔父家族から下へも置かぬもてなしを受ける。三日後に叔父宅を出発し剣山に向かうときも、叔父は、次の村の峠の上まで三人分の荷物を一人で持ち、汗だくになって運んでくれた。叔父に手を振って別れ、その後、三人は楽しい登山の思い出をつくることとなる。そして登山の旅から戻って二、三週間後のある日、「私」は叔父から父に届いた手紙を見る。そこには過日の叔父宅での様子とともに「私」を含めた三人からのお礼のはがきが届かないことが書かれており、それを見た「私」は汗顔赤面して恥じ入り、友達を恨む気持ちにさえなってしまうのである。

本教材は時代は異なるが、生徒と同年代の主人公の「私」の体験が話の核となっているため、生徒は共感的に読んだり、類似した体験を想起したりしやすいと考える。おそらく大半の生徒は、叔父が「私」や友達に対して行ったもてなしに対して、「ありがたい」と感謝すべきで、お礼のはがきを出さなかった行為が非礼にあたることは理解できると予想される。しかし、同時に改めてはがきを出す行為に対して、照れくささと億劫さを感じてしまう面もあると考える。

「道徳的問題の把握」の段階では、教材を読み「私」へ自己の姿を投影させることによって、生徒の本音を十分に引き出し、次の「考え、議論する」段階へつなげていきたい。具体的には、生徒は上記のようにお礼状を出すことは礼儀ある行為であるという意見を出す一方で「叔父の行動は頼んだものではない。それなのに礼のはがきがないと言われるのは理不尽ではないか」「直接自分に注意せず、父に手紙を出すのはなぜだろう」などといった意見をもつことが予想される。これらの生徒の率直な意見を立場を設定して考えさせることで引き出し、「私」はどのように判断し行動すべきだったかについて議論させたい。さらにその後、議論した内容を「礼儀」という視点で振り返らせ、あるべき姿を共有することを通して、「礼儀ある行動をとるためにはどのようなことを大切にすればよいか」について考えさせたい。また議論する中で「私」だけでなく、様々な立場に気付かせ、それぞれの異なる立場に立って考えさせることで多面的・多角的に考えさせ、多様な意見が出るような手立てを行っていきたい。

以上のことから、本教材は生徒がこれまでの自分の姿から課題を設定し、級友と考え、議論することを通して、礼儀の意義や役割についての理解を深め、今後、礼儀ある行動をとっていかうという実践意欲と態度を育むことのできる教材であると考えられる。

(3) 指導過程（※は、研究の重点に対応している）

過程	学習内容・主な発問	時間(分)	生徒の反応例	教師の働きかけと留意点
導入	1 相手から礼儀ある行動をされたときの自分の気持ちを思い起こす。また、自分が礼儀ある行動をとることができた場面や、とることができなかった場面を思い起こす。	3	<ul style="list-style-type: none"> 後輩から元気な挨拶をしてもらってうれしかった。 目上の方に礼儀正しい言葉遣いで話しができた。 市電の中で友達と騒いでしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かで円滑な人間関係を築く上で礼儀が果たす役割の大きさを生徒に認識させ、礼儀ある行動について考えようとする意欲を高める。
	2 自己課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">礼儀ある行動をとることができなかった経験を思い起こし、今後、いつも礼儀ある行動をとるためには、どんなことを大切にすればよいでしょうか。</div>	5	<ul style="list-style-type: none"> 親につい荒い言葉をぶつけてしまった。これからは言葉遣いに気をつけよう。 市電の中で友達と騒いでしまった。これからはマナーを守っていかう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「礼儀ある行動をとるためには、何が大切なのだろうか」という全体課題を提示し、生徒がこれまでの経験から自己課題を設定できるようにする。 <p style="text-align: right;">※Ⅱ-1(2)</p>
展開	3 教材「一枚のはがき」を読み、問題だと思ったり、気になったりする箇所に線を引く。	4	<ul style="list-style-type: none"> 「一枚のはがきもこない、このごろの若い者は呑気なものだ」というところが気になるな。 「次の村の峠の上まで汗だくで運んでくれました」というところがどうだろうと思いを線を引いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が教材を読むときに留意する視点を明確に伝える。 生徒の気付きや思いを賞賛し、発表しやすい雰囲気をつくる。
	4 教材の流れを簡潔に把握し、議論すべき場面を焦点化する。	6	<ul style="list-style-type: none"> 旅の中でお礼を言っているのに、改めてお礼状を出さないといけないのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の本音が十分に引き出しされるようにする。

過程	学習内容・主な発問	時間 (分)	生徒の反応例	教師の働きかけと留意点
展開	<p>5 立場カードを書き、4人班で「私」や叔父などの立場に立って議論する。</p> <p>「私」は旅の後、叔父にお礼のはがきを送る必要があったのでしょうか。</p>	22	<ul style="list-style-type: none"> この問題を解決するために、どんな立場で考えればいいのか。 「私」の立場に立つと、叔父はお願いしていないことをしたのだから、改めてはがきを出す必要はない。 叔父は精一杯の歓迎をしたのだから、「私」たちがどんな感想をもったか知りたいはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 多面的・多角的に考えられるよう立場カードを記入させる。 ※Ⅱ-2(3) 4人班を「私」や叔父などの立場に分け、「私」がはがきを出さなかった理由や、叔父がはがきを待っていた理由などを考え議論させる。
	<p>6 様々な立場に立って、多面的・多角的に考え、全体で話し合い考えを深める。</p> <p>班での議論を通して、どのようなことを考えましたか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 叔父の家族はその後の登山の様子や、家までの帰路の様子を知りたいのではないか。 父は自分の子供が礼儀を知らずに育ってほしくないと思ひ、はがきを見せたのではないか。 友人も親戚ではないが、叔父たちにお世話になったのだからお礼の手紙を出すべきだ。 うれしかった。 すごいと思った。 帰った後も忘れずに覚えてくださっててから。 私達のことを思ってわざわざ手紙をくださる心配りを感じたから。 	<ul style="list-style-type: none"> 班で議論し、それを全体で共有させて考えを深めさせるとともに、他の立場へも視野を広げさせ、生徒がより多面的・多角的に考えられるようにする。 単にはがきを出すか否かということに囚われず、礼儀について深く考えられるようにする。 ※Ⅱ-1(2)(3) これまでの学校生活で礼儀ある行動をされた体験を思い出させ、その時どのような気持ちになったか、また、なぜそのような気持ちになったのかを考えさせる。 ※Ⅱ-1(1)
終末	<p>7 学習活動を踏まえ、新たな自己課題を設定する。</p> <p>今日の学習を踏まえて、今後、いつも礼儀ある行動をとるために、どんなことを大切にすればよいのでしょうか。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことを認め大切に思ったり、感謝したりする気持ちが大切だ。 思っているだけではなく、実際に行動に移して思いを伝えることが大切だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 考え、議論したことを基に生徒が新たな自己課題を設定できるようにする。 初めに設定した自己課題との違いから、考えの深まりに気付かせる。 ※Ⅱ-1(2)
	<p>8 振り返りシートに道徳的価値についての考えを記入する。</p> <p>あなたにとって礼儀とはどんなものですか。今の考えを振り返りシートに書きましょう。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 今日、考えた礼儀は、これまで考えてきた礼儀と比べて少し変わったな。 保健体育の武道で礼について学んだけど、思いを形に表すという意味でつながりがあるな。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年間の系統的な学びが図られるようにする。 他教科との学習との関連に目を向けさせ、道徳的価値の理解がより深まるようにする。 ※Ⅱ-2(1)(2)
	<p>9 教師の説話を聞く。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> 今日みんなで話し合ったことを、これから実行していこう。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的実践意欲や態度、実践力の高まりにつなげられるようにする。